

高橋かずちかの「**打開トーク**」vol.4



高橋かずちかが、東京都の社会的・経済的な「地盤沈下」に対処すべく、中野の現場に着目して「打開」の方向性を探る対談。現場目線で地域の皆さんと一緒に、東京・中野の未来を打開します。

今回は東京の責任世代の役割と行政改革の方向性について探るべく、石原伸晃自民党東京都連会長（元行政改革担当大臣）との対談を行いました。

石原：気が付いてみれば、私も高橋さんも子どもを持つ年になってきましたね。子どもを持つようになると、次世代への責任を強く感じるようになりますね。

高橋：社会に出て20年以上働いて築き上げてきた社会への責任、そして私たちの次の世代への責任を強く認識します。

石原：積み上げられた財政赤字や将来的に膨張する社会保障費など、諸々の財政課題について、未来を見据えて行政改革を行っていくことが重要です。

高橋：徹底した行政改革によって無駄使いを無くしていくことが大事ですね。全国の地方自治体では三重県や大阪府のように国に先駆けた行政改革の取り組みが始まっています。

石原：それは良いことです。東京都は他の地方自治体と比べて財政的に多少余裕があるため、まだまだスリム化する余地があると思います。

高橋：そうですね。余分な財政支出を縮小し、住民の福祉の向上に本当につながる部分に予算を集中させることで賢い行政を作っていく必要があります。

石原：高橋さんは、民間企業（清水建設）での長年の勤務経験がある。そして地域で活躍されている先輩達の世代と現役世代、更にこれからの世代に親密なネットワークをもっている。是非民間のノウハウを生かして旧態依然の政治の打開に取り組んでほしいと思います。

高橋：ありがとうございます。
常に情報収集を心がけて力いっぱい頑張ります。



衆議院議員
石原伸晃氏

現・自民党幹事長代理、自民党東京都連会長
元・国土交通大臣、行政改革・規制改革担当大臣
自民党政務調査会長

高度成長期が終わり、生活環境が劇的に変化していく現在、政治を打開しなくてはならない。その基本は「納税者目線」「住民目線」であり、次世代に責任を持つ事である。私は都政打開のこの機会に、地域の先人方や新しい世代、新しい人たちも加えて一緒に行動しながら、都政の行政改革に邁進していく決意である。